

針広混交林化施業技術開発モデル事業 ～ 環境保全林における針葉樹人工林の針広混交林化の加速 ～

＜R 7. 9 月補正予算要求額 19, 900 千円＞

【清流の国ぎふ森林・環境基金】

（１）趣旨（現状と課題）

- ・第3期岐阜県森林づくり基本計画（H29～R3）にて、人工林（約31万ha）のうち造林不適地や林業での採算が見込めない森林については、天然林や針広混交林（約18万ha）へ移行させていく方針を策定。
- ・これまで、環境保全林（林業不適地）における針葉樹人工林について公益的機能の向上を目的として、環境保全林整備事業にて間伐を支援してきたところ。
- ・生物多様性をめぐる社会的要請が高まる中、多様な森林づくりを進めるためには、間伐後の事業地を針広混交林等へ誘導していく必要がある。そのため、本県の諸条件に適した針広混交林化に関する施業技術を確立する必要がある。

（２）事業内容

- ・早期の針広混交林化を目的として、針葉樹人工林を列状、群状など様々な手法で強度伐採するとともに、シカ対策を講じた上で天然更新や植栽により広葉樹を導入するモデル事業を実施。
- ・伐採後5～10年で針広混交林化の目途を得、30年後に針広混交林できる技術体系の確立を目指す。

（３）実施方法

- ・検討チームの設置（R7. 5. 23）
有識者、関係各課等からなる検討チームを設置し、既存の知見や技術的課題等を整理するとともに、その解決に向けた検討を実施
- ・モデル事業地を募集し、本年度、調査、強度伐採を実施（2ヶ所程度）
- ・次年度以降、伐採箇所にて、シカ対策を講じた上で天然更新や植栽により広葉樹導入を実施。また、新たに3ヶ所程度のモデル事業地にて事業を開始。

（４）R 7 年度の主な事業内容

- ・調査・測量・設計、森林整備（強度伐採） 2箇所程度

針広混交林化施業技術開発モデル事業

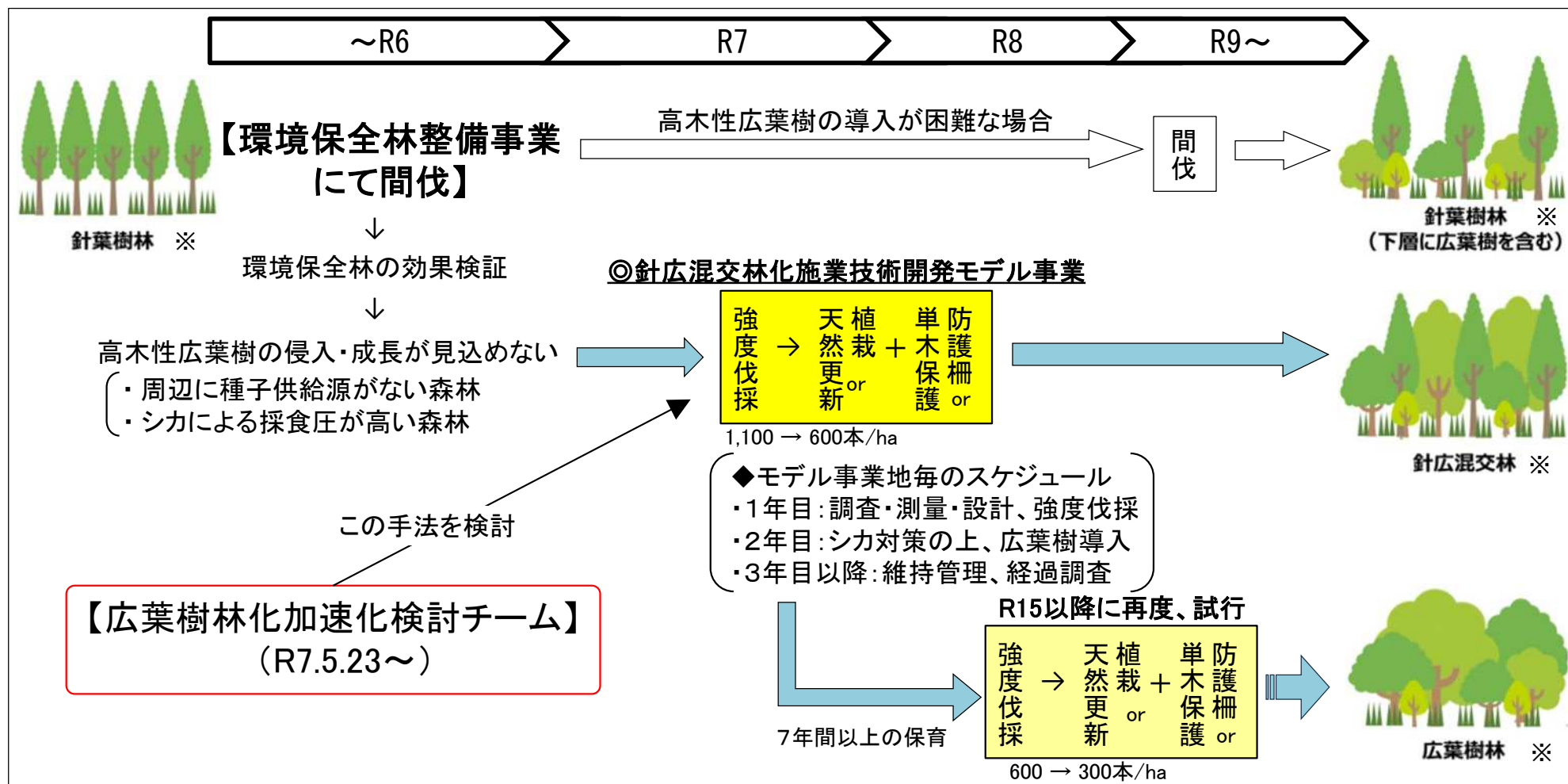
～ 環境保全林における針葉樹人工林の針広混交林化の加速 ～

【前提】 戦後の拡大造林により、奥山においてもスギ、ヒノキの人工林化が進展

【目標】 林業適地はスギ、ヒノキ等（一部は広葉樹）の人工林、林業不適地である奥山は広葉樹を主とした森林

【現状】 広葉樹の侵入等を目的に間伐を実施しているが、針広混交林化が進んでいない

【課題】 本県の諸条件に適した針広混交林化に関する施業技術の確立



※図は、「国有林野事業における天然力を活用した施業実行マニュアル(H30林野庁国有林野部経営企画課)」から引用